

1.概評

12の質問項目の内、前期に比して数値の改善が認められたものは11項目で、平均(No.4・12以外)が4以上となったものが10項目となり、概ね良好と認められる。特に例年の課題であった自主的な学習については、他の項目に比べ数値は低いものの、改善が認められた。

[学生]

シラバスの確認については、前期に比して0.2ポイント改善し、シラバスに対する学生の意識が向上したものと考えられる。自主的な学習についても、No.1と同様に0.2ポイント改善し、改善が認められた。しかし、数値としては全項目で最も低いことから、今後も重要な課題として取り組む。授業への取り組み、出席状況は、前期と同様に、概ね良好と認められる。

[授業[内容]]

授業内容とシラバスとの整合性、また学生の理解度に応じた授業運営についての評価は、共に前期に比して数値が改善し、概ね良好と認められる。

[授業[教え方等]]

教授方法では、3項目(No.6・7・8)で前期に比して0.2ポイント改善し、更なる改善に努めたことが伺える。

[環境・設備等]

学習環境については、前期に比して0.1ポイント改善し、概ね良好と認められる。参考資料についても、0.2ポイント改善された。自主学習への取り組みを更に支援するためにも、図書館との連携を強化したい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|---|
| 1 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 8 | 18 | 69 | 前期に比して0.2ポイント改善し、3以下の科目がなくなり、良好と言える。3.5以下の科目は、前期同様で、必修科目や基礎科目が多い。 |
| 2 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 33 | 59 | 前期に比して0.1ポイントの改善が認められた。数値の高い科目は、実習・演習系科目で、低い科目は、必修や基礎科目が多いという例年と同様の傾向であった。 |
| 3 | 4.3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 90 | 前期と同様の数値で、学生の出席状況は、良好である。 |
| 4 | 3.6 | 0 | 1 | 2 | 26 | 51 | 15 | 前期に比して0.2ポイント上昇し、改善が認められた。数値が低い科目として、1・2年次対象の基礎的な科目が多く、授業に対する取り組み方を更に周知する。 |
| 5 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 35 | 56 | No.1と同様に、前期に比して0.2ポイント上昇し、ほぼ良好と認められる。シラバスの確認が十分でない科目と重なることから、該当科目に対して、工夫を求める。 |
| 6 | 4.0 | 0 | 0 | 1 | 7 | 33 | 54 | 前期に比して0.1ポイントの改善が認められた。3以下の科目については、状況を確認した上で、改善を図る |
| 7 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 23 | 69 | 前期に比して0.2ポイント上昇し、改善が認められた。概ね良好と言える。 |
| 8 | 4.3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 18 | 76 | No.7と同様、前期に比して0.2ポイント上昇し、改善が認められた。概ね良好で、学生の満足度が高い。 |
| 9 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 36 | 56 | 前期に比して0.2ポイント上昇し、改善が認められた。概ね良好である。 |
| 10 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 18 | 76 | 前期に比して、0.1ポイント改善し、概ね良好である。 |
| 11 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 18 | 76 | 前期に比して、0.1ポイント改善し、概ね良好である。3.5以下の科目については、状況を確認の上、改善する。 |
| 12 | 3.9 | 0 | 0 | 1 | 4 | 51 | 39 | 前期に比して、0.2ポイント改善した。3.5以下の科目については、状況を確認し、対応を促す。 |

3. 今後の方針

- 1 前期に比して、多くの項目に数値の改善が認められたが、この改善が実質的にどのようなものであったのか、今後も検証していくことが必要であり、その検証方法を探っていきたい。
- 2 自主的な学習や授業に対する取り組みについて、僅かながらの改善が認められたものの、前期同様に、1・2年次対象の基礎的な科目の中に、数値の低いものが認められる。こうした学生の学習意欲を喚起する取り組みについて、各授業担当者に改善を求めると共に、学科内でも意見交換する機会を設け、改善に取り組む。

1.概評

学科平均が全体平均より上回っているものが12項目中4項目(No.1、No.5、No.7、No.12)、下回っているものが2項目(No.3、No.11)、それ以外は同じ数値であった。前年度(後期)との比較においては、12項目中11項目が上昇し、残りの1科目が同じ評価であった。良好な結果となっている。引き続き改善が図れるように検討を続けていきたい。

[学生]

シラバスの事前確認(No.1)についてはWEB履修が導入されたためか改善の傾向がみられる。出席状況評価(No.3)は全体平均を0.1ポイント下回っている。出席状況改善のため学生に動機付けをしていきたい。授業外の自主的な学習(No.4)は3.6ポイントと全項目中で最も低い評価となっている。教室の内外でより積極的・自主的に取り組むように奨励していきたい。

[授業[内容]]

授業内容とシラバスの一致(No.5)は、全体平均を0.1ポイント上回っている。WEB履修導入で、より詳細で分かりやすいシラバス作成ができてきているようだ。

[授業[教え方等]]

4項目とも3.9~4.1ポイントの高い評価となっている。授業(教え方等)については概ね満足している評価といえよう。今後もFD活動等を通して、より効果的な授業運営ができるように検討を重ねたい。

[環境・設備等]

学習環境(No.11)については全体平均を0.1ポイント下回っている。教室の広さに対して履修人数が多いケースも見られる。より適正な開設授業数の確保、教室割など考慮していきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|--|
| 1 | 3.8 | 0 | 0 | 6 | 22 | 44 | 40 | 前年度(後期)と比較すると0.3ポイント上がっている。必修科目については低い評価のものもみられるので、引き続き受講前シラバス確認の指導を徹底したい。 |
| 2 | 3.9 | 0 | 0 | 1 | 7 | 49 | 55 | 前年度より0.1ポイント上がっている。評価が高い科目は演習系で履修者が比較的少なく、低い科目は講義系で履修者が多い傾向がみられる。 |
| 3 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 31 | 80 | 前年度より0.1ポイント上回ったが、全体平均からは0.1ポイント下回っている。授業出席への動機づけの方策を検討したい。 |
| 4 | 3.6 | 0 | 2 | 4 | 39 | 51 | 16 | 前年度より0.1ポイント上回ってはいるが、全12項目中最も低い評価となっている。授業外での自主的な学習状況が改善するようFD活動を進めていきたい。 |
| 5 | 3.8 | 0 | 0 | 3 | 17 | 57 | 35 | 前年度より0.2ポイント上がっている。WEB履修導入がより分かりやすいシラバス作成につながったようだ。 |
| 6 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 9 | 49 | 54 | 前年度と同じ数値となっている。演習系で履修者が比較的少ない科目の評価が高く、講義系で履修者が多いものは低い傾向がみられる。 |
| 7 | 4.1 | 0 | 0 | 2 | 7 | 30 | 73 | 前年度より0.1ポイント上がり、高い評価となっている。No.6と同様の傾向がみられる。 |
| 8 | 4.1 | 0 | 0 | 1 | 7 | 29 | 75 | 前年度より0.1ポイント上がり、高い評価となっている。No.6、No.7と同様の傾向がみられる。 |
| 9 | 3.9 | 0 | 0 | 3 | 9 | 46 | 54 | 前年度より0.1ポイント上がっている。パワーポイントをはじめとする視聴覚教材の使用に加え、効果的な板書についても呼びかけていきたい。 |
| 10 | 4.0 | 0 | 1 | 1 | 7 | 44 | 59 | 前年度より0.1ポイント上がっている。統一教材を使用する習熟度別スキル科目の中に評価の低いものがみられる。 |
| 11 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 37 | 67 | 前年度と同様の数値であるが、全体平均よりも0.1ポイント下回っている。学生数に対する適正な授業数の確保を検討したい。 |
| 12 | 3.7 | 0 | 0 | 2 | 14 | 72 | 24 | 前年度より0.2ポイント上がっている。1・2年対象の必修科目で、図書館設置の本を課題の一部としたため、評価の上昇につながった。 |

3. 今後の方針

平成 21 年度からの WEB 履修の導入に伴い、シラバスの事前確認(No.1)とシラバスと授業内容の一致(No.5)がそれぞれ 0.3 ポイントと 0.2 ポイントの上昇となった。ただし、必修授業についてはシラバスの事前確認が依然として徹底されていない傾向がみられるので、学生に対して引き続き指導を続けていきたい。

図書館の利用(No.12)については、1・2 年対象の必修スキルクラスにおいて、図書館設置本を課題図書と指定したので、昨年度に比べて評価が 0.3 ポイント上昇した。今後とも、1 年生基礎ゼミ、3 年後期の特別演習(卒論ゼミ)で実施する図書館ガイダンスをはじめとして、図書館と連携した活動を進めていきたい。

学生が教室内外で自主的・積極的に学習の取り組みができるよう、学科の FD を検討していきたい。授業内容や教え方については概ね良好な評価であったが、全学あるいは学科の FD 活動等を通して、一層の改善を図っていきたい。

1.概評

後期開設科目のうち 10 名以上履修者のいる 79 科目についてアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が 3、全体平均と同じである項目が 7、やや下回る項目が 2 である。前期と比較すると全体平均を下回る項目（前期 8）が減り、改善のあとがみられ、授業は問題なく実施されていると判断できる。

[学生]

出席状況は良好（No.3）であるが、授業外での自主的な学習（No.4）で全体平均をやや下回り、自主学習が弱い。

[授業[内容]]

全体平均よりもやや良い（No.4）項目と同等の項目があり、全体的に問題ない。

[授業[教え方等]]

全体平均とすべて同じであり、学生は概ね満足していると判断できる。

[環境・設備等]

前期に比べて 1 点あがったが、学習環境（No.11）では、全体平均よりも 1 点低く、履修者の増加に起因しているようである。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|---|
| 1 | 3.9 | 0 | 0 | 1 | 11 | 24 | 43 | 全体平均より 2 点、また前期よりも 2 点高くなり良好であるが、必修科目、博物館連科目でシラバスの確認が弱い傾向にある。 |
| 2 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 6 | 34 | 39 | 全体平均と同じであり、前期よりも 1 点高く、授業への取り組みは概ね良好である。 |
| 3 | 4.3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 | 74 | 全体平均よりも 1 点高い。また前期と同じ点数で出席状況は良好である。 |
| 4 | 3.5 | 0 | 0 | 2 | 42 | 32 | 3 | 前期よりも 2 点高くなったが、全体平均より 1 点低い。必修・実習系の授業で自主的な学習が弱い。 |
| 5 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 15 | 38 | 26 | 全体平均より 1 点高く、また前期よりも 3 点高くなっており、シラバス内容に沿った授業への改善がみられる。 |
| 6 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 10 | 30 | 39 | 全体平均と同じで前期よりも 2 点高い。授業内容は理解されている。 |
| 7 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 21 | 49 | 全体平均と同じであり、説明は概ね明快である。 |
| 8 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 5 | 21 | 53 | 全体平均と同じ。ただし、必修授業では低い。これは履修者の増加と関連している可能性がある。 |
| 9 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 10 | 26 | 43 | 全体平均と同じである。低いのは視聴覚教材を使用しない必修授業に多い傾向がみられる。 |
| 10 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 27 | 49 | 全体平均と同じである。概ね良好である。 |
| 11 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 30 | 44 | 全体平均より 1 点低いが、前期よりも 1 点高い。しかし、全体平均より低いのは履修者の多い授業が増えたためであろう。 |
| 12 | 3.6 | 0 | 0 | 0 | 30 | 41 | 8 | 全体平均と同じである。学生に図書館に図書申し込みをするように働きかけたい。 |

3. 今後の方針

1. 以前から指摘されていることであるが、当学科の学生は授業をまじめに取り組むが、授業以外の学習に関しては積極性に欠ける傾向にある。いかに自主的な学習を促すかは恒常的な課題である。そのため、本年度から歴史文化基礎（1年必修）を設け、その中で地域にでて調べること、博物館・美術館見学とレポート提出などを課しており、自主的・主体的な学習をうながしたい。また、当学科のなかで日本考古学、アジア考古学専攻の教員は、夏季休暇中に学生をフィールド調査に参加させており、学生の意欲を引き出している点などは今後の当学科の方向性を考える上で示唆的である。

2. 必修授業、実験・実習系授業の評価が芳しくない。このことは、大人数と少数の授業の違いの反映でもあろうが、公開授業のなかで検証する必要があるかもしれない。公開授業と連携しながら検証をすすめたい。

1.概評

前期と比較した場合、設問 12 項目中 10 項目の数値が前期の学科平均を上回っている。これは、前期の授業完全報告の結果をもとに各教員が授業改善に取り組んだ結果といえよう。

〔学生〕

出席率と自主的な学習は学内平均を上回っていた。後期になると、国際学科の学生は英語に加えヨーロッパ言語（週 4 コマ）あるいはアジア言語（週 6 コマ）を必修として履修することになっている。多くの宿題が課された中で、自主的な学びを学生がしていたことがわかる。また、高い出席率を維持していることは学生の積極的な姿勢の表れでもある。

〔授業〔内容〕〕

授業内容に関する学生の理解度は前回よりも改善され、概ね良好といえる。前期同様、学生のレベルによってシラバスの内容を変更せざるを得なかったこともあった。

〔授業〔教え方等〕〕

4 つの設問のうち半分が全体平均を上回った。しかし、教員は授業方法を改善するためにさらなる工夫や努力が必要である。

〔環境・設備等〕

前回同様、環境整備の進んだ教室では高い評価であった。新設学科であることから、教室の確保が希望通りできなかった点が残念である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|--|
| 1 | 3.4 | 0 | 1 | 4 | 21 | 14 | 17 | 必修授業でシラバスの確認を怠っている学生が多い傾向がある。初回の授業で担当教員がシラバスを配布することも検討したい。 |
| 2 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 2 | 30 | 25 | 全体としては、授業への取り組みは積極的であるとみられる。ただし、受講生の多い必修科目ほど学生の意識が低くなる傾向がみられる。 |
| 3 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 13 | 43 | 出席状況は良好であるが、後期は必修科目が増えたこともあり、全体平均よりもやや評価が低くなっている。 |
| 4 | 3.7 | 0 | 0 | 1 | 14 | 34 | 8 | 授業外に課題が多く課される科目ほど評価が高い。引き続き、学生の主体性を引き出すようにするかを検討していきたい。 |
| 5 | 3.6 | 0 | 0 | 1 | 13 | 28 | 15 | この数値は、シラバス確認の不十分さと連動しているように思える。シラバスの確認の重要性を学生に理解させていきたい。 |
| 6 | 3.8 | 0 | 0 | 1 | 5 | 27 | 24 | 概ね良好である。学生の理解度に応じた授業運営を目指して、後期から学生の学力差に応じたクラス編成とした。 |
| 7 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 16 | 39 | 全体平均よりも高い評価となった。学生の満足度は高かったと考えられる。 |
| 8 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 17 | 39 | 良好な評価である。今後も授業の聞き取りやすさについて改善を続けてゆきたい。 |
| 9 | 4.0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 24 | 29 | 前期よりも改善がみられたが、授業形態によって評価が左右される傾向がある。学科としては、今後も改善を促したい。 |
| 10 | 4.0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 17 | 38 | 概ね良好である。今後とも効果的な配布資料・教材の作成に努めたい。 |
| 11 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 16 | 40 | 全般的に良好である。少人数クラスで評価が高かった。 |
| 12 | 3.7 | 0 | 0 | 0 | 13 | 29 | 15 | 概ね良好であるが、今後とも各教員が積極的にかかわっていくことが必要である。 |

3. 今後の方針

新学科であることから、図書館で貸し出しができる参考資料を充実させていくことが大きな課題である。現状をより改善する必要があると思われるので、学生から寄せられた声を各教員が真摯に受け止めることが大切と思われる。

1.概評

前回と比べ、すべての項目の数値が、同じあるいは高くなっており、全体として良好である。が、今後も引き続き、授業の改善に取り組んでいきたい。

[学生]

授業への取り組み、出席状況等に関して、学生の自己評価は高い。また、履修の際にはシラバスを確認する習慣も身に付いてきた。ただし、授業外での自主的な学習に関しては、やや低めの評価となっており、授業外での課題やレポート作成を自主的な学習とみなしていない可能性がある。

[授業[内容]]

授業とシラバスとの整合性に関しては、例年どおり、良好である。が、シラバス確認を学生に勧める前提として、シラバスをわかりやすく、授業と整合したものにしていくよう、各教員に再確認をしていきたい。授業内容が理解できたかに関しては、やや低めの評価となっていることから、学生の理解度を確認しながら授業を進めていくような工夫を各教員が行っていくこととしたい。

[授業[教え方等]]

説明の明快さ、話の聞き取りやすさ、視聴覚機材や配布資料・教材の効果等への評価は、わずかではあるがこれまでより高くなってきており、いずれも良好だと言える。

[環境・設備等]

学習環境は概ね良好である。図書館資料に関しては、わずかではあるが評価が高くなっている。今後も充実を図っていきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|---|
| 1 | 3.8 | 0 | 0 | 5 | 8 | 15 | 18 | 過去2回に比べ、0.2ポイント上昇し、大学全体の平均を超えた。引き続き今後も指導していきたい。 |
| 2 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 5 | 25 | 16 | 過去2回と同値であり、大学全体の平均とほぼ同値であった。学生の授業への取り組みは、全体として積極的であると言える。 |
| 3 | 4.4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 46 | 過去2回と同値であり、大学全体の平均より0.2ポイント高い。授業への出席率はかなり高い状況である。 |
| 4 | 3.2 | 0 | 0 | 9 | 23 | 14 | 0 | 過去2回と同値であるが、大学全体の平均より0.4ポイント低い。授業外での課題やレポート等への取り組みを自主的な学習と捉えていない可能性がある。 |
| 5 | 3.6 | 0 | 0 | 2 | 15 | 20 | 9 | 前回より0.2ポイント上昇し、大学全体の平均とほぼ同値となった。今後もシラバスと授業との整合性等、各教員が確認していくこととする。 |
| 6 | 3.6 | 0 | 0 | 5 | 6 | 25 | 10 | 過去2回と同値であるが、大学全体の平均より0.3ポイント低い。引き続き、各教員に改善をお願いしていく。 |
| 7 | 3.8 | 0 | 0 | 4 | 11 | 11 | 20 | 過去2回とほぼ同値であるが、大学全体の平均より0.2ポイント低い。引き続き各教員に改善をお願いしていく。 |
| 8 | 4.0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 18 | 23 | 過去2回よりも高い値となり、大学全体の平均とほぼ並んだ。おおむね良好である。 |
| 9 | 3.7 | 0 | 0 | 4 | 9 | 16 | 17 | 過去2回とほぼ同値であるが、大学全体の平均より0.2ポイント低い。問いにPowerPointと明記されているため、使用しない授業の評価が低い可能性がある。 |
| 10 | 3.8 | 0 | 0 | 1 | 6 | 20 | 19 | 過去2回と同値であるが、大学全体の平均より0.2ポイント低い。引き続き、各教員に改善をお願いしていく。 |
| 11 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 14 | 28 | 過去2回とほぼ同値であり、大学全体の平均ともほぼ同値である。学習環境は良好である。 |
| 12 | 3.5 | 0 | 0 | 0 | 20 | 26 | 0 | 過去2回に比べやや値は高くなったが、大学全体の平均とはほぼ同値である。蔵書の一層の充実を図りたい。 |

3. 今後の方針

前回と比べ、すべての項目の数値が、同じあるいは高くなっており、全体としては良好である。

授業内容の理解度や教え方に関しては良好ではあるものの、大学全体の評価よりやや低めであるため、結果を教員間で共有し、改善点を検討していきたい。

学習環境に関しては、おおむね良好であった。

図書館資料の充実に関しては、評価が高くなったものの、まだ大学全体に比較すると低めである。引き続き、専門書等を中心に、授業で参考となる資料を購入し、併せて学生への広報を積極的に行っていくたい。

1.概評

〔学生〕 シラバスの内容確認は、UPSHOWA からの確認ができるようになったことや、専任教員の中には第 1 回目の授業でシラバスを配布して説明をしている場合があったりすることから、ポイントの向上が見られた。学生の出席状況は、前年度と同様に全体的に良好であったが、授業への積極性や授業外での自主的な学習については、前年度と同じポイントにとどまった。特に、多人数での授業では、平均より低い傾向にあることから、環境面を含めた改善が必要といえる。

〔授業〔内容〕〕 授業内容とシラバス内容については、年々ポイントが上がってきており、予想通りの授業が行われてきていることがわかる。授業内容の理解についても、平均で前年度と同じ評価を得ている。特に、学科の専任教員で少人数の授業が比較的评价が高いことから、授業の環境がよいことと、教員と受講学生との関係性の構築も授業内容の理解に影響していることが伺われる。シラバスについては、法改正への対応として、新カリキュラムと旧カリキュラムの同時開設科目があるため、わかりにくい状況がある。それがなくなれば、シラバスと授業との一致が高まることが予想される。

〔授業〔教え方等〕〕 板書以外は、すべて前年度と同じか、ポイントアップの評価となっている。多人数の授業については、配布資料等、評価が低い傾向にあるが、そのほかは前年度までに見られた傾向と異なり、科目の特徴（例えば、講義系と実習・演習系）による傾向よりも、担当者の違いによる格差がみられるようになった。学科としては、環境面（教室の広さや履修人数）への配慮を行うようにするほか、担当教員とのコミュニケーションを密にし、環境面でのサポートを心がけるようにしたい。

〔環境・設備等〕 環境面では、従来受講人数に比べて教室が狭いことで、評価が低くなる傾向が多かったが、今年度は受講人数に対して教室が広すぎること、評価が低くなっていると思われる場合が複数見られた。図書についても、従来は福祉関係の図書の不備の指摘が見られたが、今年度は福祉に限らず、他の分野の科目についての充実が課題となっていることがうかがえた。

2.各項目の評価

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|--|
| 1 | 3.5 | 0 | 0 | 5 | 43 | 53 | 10 | シラバスの事前確認については、前年度に比べ、学科平均としては改善された。しかし、教養科目や非常勤教員の担当科目では、3.0 以下の科目が複数見られた。 |
| 2 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 17 | 50 | 44 | 前年度平均と同じ結果であった。全体に、多人数での授業では、積極性が低くなっているため、環境的な要因の改善が求められる。 |
| 3 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 100 | 9 割以上の科目で、4.0 以上の評価となっており、前年度と同様、出席状況は良好である。1 講時など授業の時間帯によって、出席が低くなる傾向が若干見られる。 |
| 4 | 3.4 | 0 | 0 | 10 | 55 | 37 | 9 | 前年度平均と同じ結果であったが、全体にバラつきが少なくなった。多人数での授業では、自主的な学習も低い傾向にある。 |
| 5 | 3.6 | 0 | 0 | 2 | 39 | 62 | 8 | シラバス通りという評価が年々高まってきている。法改正により、専門科目の中で、旧カリと新カリの移行期間にあるものの中で若干評価が低いものが見られる。 |
| 6 | 3.8 | 0 | 0 | 3 | 21 | 61 | 26 | 前年度平均と同じ結果であった。福祉以外の関連専門分野科目、多人数科目、専門性が高いと思われる科目の理解度が低い傾向が見られた。 |
| 7 | 3.9 | 0 | 0 | 2 | 19 | 44 | 46 | 授業の説明は、平均では前年度と同じ結果であったが、全体に科目間の差が大きくなっている。専門性の違いなどもあるといえるが、格差の縮小が課題である。 |
| 8 | 4.0 | 0 | 0 | 1 | 9 | 46 | 55 | 前年度と同様、授業内容はよく聞き取れていたことがわかる。受講人数と教室の大きさへの配慮、マイクの使用等、一層の工夫が必要な科目がある。 |
| 9 | 3.8 | 0 | 0 | 1 | 35 | 47 | 28 | 平均では前年度より高くなった。前年度までは、講義科目に比べ、板書が少な目である実技・演習科目が低かったが、その差は少なくなり、教員ごとの差が見られた。 |
| 10 | 3.9 | 0 | 0 | 2 | 16 | 39 | 54 | 前年度よりも平均では高くなっている。多人数の授業や実技系の授業では、配布資料等が少ないのか、評価が低い傾向にある。 |
| 11 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 10 | 42 | 59 | 学習環境については、年々ポイントが上がってきている。しかし、教室が広すぎたり、授業人数とのバランスが悪い場合に評価が低い傾向が見られた。 |
| 12 | 3.6 | 0 | 0 | 1 | 52 | 48 | 10 | 参考図書については、前年度よりも 0.2 ポイント低下した。福祉だけでなく、他の分野でも低めの科目があるので、分野を問わず図書の充実が必要である。 |

3. 今後の方針

・シラバスの事前確認については、オリエンテーション時の教務ガイダンスにおいて、履修説明とともにその意義を説明し、一層の向上を図る。学生の出席状況は良好であるが、1講時の授業など、一部でポイントの低い科目が見られたので、遅刻対応(遅延証明をもらえばよいということではないこと)と併せて、クラスアドバイザーなどを中心に指導を徹底する。授業への積極性や自主的な学習については、多人数での授業でポイントが低い傾向にあるので、環境面を含めた改善策(受講人数と教室の広さの適正化)の検討と、場合によっては受講調整による対応を行う。

・授業内容については、科目によっては、法改正による移行期間もあるため、表記内容と授業との関連がわかりにくいことがあるので、その説明を丁寧にするとともに、シラバスがわかりやすいものとなるよう各教員に依頼を行う。教え方等については、年々ポイントが向上してきているのが、大学のFD活動をふまえ、授業内容や教え方の向上を図る。教材については、学科でもビデオやDVDなどの視覚教材の充実を図るほか、教員間の情報交換等を密にして、配布教材や視聴覚教材の適切な活用を行う。

・学習環境については、年々履修予定の学生数の見込みが立ちにくく、使用できる教室が限られていることから、教室の広さと受講生の人数のバランスがとりにくくなっているが、初回の授業開始後、環境が悪い(狭い、広すぎる)場合は、教室変更の可能性を探り、対応を図るようにする。図書の実態については、非常勤講師の協力も得て、福祉に限らず、関連する分野も含めた図書の充実を図る。

1.概評

[学生]

「出席状況の評価」(3)も含め、全体的に全学の平均値よりやや低いか、同じ値が出ており、学科の他の項目にくらべて少し評価が低い、これまでより改善されているので、値の低い項目である1(シラバス内容の受講前確認)と4(授業外での自主的学習)の改善については引き続き、気を配っていく必要があると思う。

[授業(内容)]

学生の評価はこれまでよりも高くなっていることがうかがわれ、非常勤講師を含めた教員全体の努力が認められていると考えることができる。

[授業(教え方等)]

1項目を除き、全学平均より高い値が出ている。それぞれ非常に高い評価であり、学生の授業方法に対する満足度は高いものと思われる。

[環境・設備等]

いずれも評価が全学平均より高くなり、人数・教室の広さ等の学習環境についての満足度は依然高い。図書館の参考書の整備状況についても、学生の満足度が高まってきたものと思われる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1≦ <2 | 2≦ <2.5 | 2.5≦ <3 | 3≦ <3.5 | 3.5≦ <4 | 4≦ | 評価と対策 |
|----|------|----------|------------|------------|------------|------------|----|---|
| 1 | 3.5 | 0 | 1 | 21 | 13 | 35 | 32 | 前年度同期に比べて0.3ポイントあがっている。Web登録に慣れていくにつれてさらに改善されるではないか。 |
| 2 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 12 | 51 | 39 | 全学の平均値より低く、前期同様、横ばい状態である。教室で授業に積極的に取り組むよう引き続き注意を促していきたい。 |
| 3 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 22 | 80 | 本学では出席がきびしく管理されている結果、全学的に高い値がついている。全学の平均より0.1ポイント低いが、前年度同期よりあがっている。 |
| 4 | 3.5 | 0 | 0 | 11 | 36 | 48 | 7 | 全学の平均値に同じ。シラバスでの授業準備の指示により全体的に改善されることが期待できればよい。 |
| 5 | 3.7 | 0 | 0 | 3 | 25 | 43 | 31 | 全学の平均値に同じ。前年度同期と同年度前期より0.2ポイント上がっている。シラバスが充実されてきた結果であろう。 |
| 6 | 3.9 | 0 | 0 | 3 | 10 | 47 | 42 | 全学の平均値より高い。例年通り、比較的高い値を維持している。 |
| 7 | 4.1 | 0 | 0 | 1 | 10 | 29 | 62 | 全学の平均値より0.2高い項目の一つ。これまでよりも教員の説明が明快になっている。 |
| 8 | 4.2 | 0 | 0 | 1 | 4 | 30 | 67 | かなり高い値がついている。大学全体においてもかなり上の方である。教員の授業への取り組みの努力がうかがわれる。 |
| 9 | 3.9 | 0 | 0 | 1 | 13 | 45 | 42 | これまでより0.1ポイント上昇し、教員の授業方法の改善が認められていると考えられる。 |
| 10 | 4.1 | 0 | 0 | 1 | 7 | 29 | 65 | 全学の平均値より0.2高い項目の一つ。配布資料や教材等に学生は基本的に満足していると考えられる。 |
| 11 | 4.2 | 0 | 0 | 1 | 3 | 29 | 69 | 全学的にみてももっとも高い値がついている項目である。学習環境はおおむね良好であると受け止めることができると思う。 |
| 12 | 3.7 | 0 | 0 | 0 | 30 | 58 | 14 | これまでは「気になっていた」項目であるが、0.2ポイント上昇している。図書館での資料整備にさらに努めたい。 |

3. 今後の方針

- ☆ シラバスの内容を受講前に確認せず、科目名だけを見て時間割に合わせて履修に臨んでいる学生が依然として多いが、Web 登録に慣れていくにつれて改善されていることは明らかである。今後は新年度の教務オリエンテーションや教員それぞれの授業でもシラバスの受講前確認をさらに促すよう心がけていきたい。
- ☆ 学生の授業外での自主的な学習に関する項目の回答が気になる値となっているので、今年度から実施されたシラバスでの授業準備の指示に効果が期待できるのではないかと考えているが、先生方にはそれぞれの授業で学生の授業外での自主的な学習を勧めるよう工夫を続けていただきたい。
- ☆ 学生の出席状況への評価、教員の教え方、学習環境など、全体的にみて改善された項目が多いが、引き続き改善に努めたいと考えている。

1.概評

[学生]

どの項目でもポイントが上がっているが、特にシラバス内容の確認についての意識の高まりがみられる。意欲的に地道な努力を重ねている学生が大多数で、出席状況も良好だが、自主学習の意識化などでさらなる向上を目指したい。

[授業[内容]]

シラバス内容と授業内容の相関性については評価を高めたが、授業内容の理解については前回および平成20年度後期と同程度の評価である。授業開始前のシラバス内容確認による学習の意識づけとの関連も視野に入れつつ、改善を目指す。

[授業[教え方等]]

どの項目もわずかながらポイントを上げている。今後とも、教員間の意見交換による授業技術の向上を目指すとともに、学科で可能な限りの機器整備に努める。

[環境・設備等]

図書館資料の整備に関するポイントはわずかに高まった。図書館との連携を深め引き続き資料の充実を進めつつ、学生が図書館を身近に感じられる指導を行う。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(一般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1≦ <2 | 2≦ <2.5 | 2.5≦ <3 | 3≦ <3.5 | 3.5≦ <4 | 4≦ | 評価と対策 |
|----|------|----------|------------|------------|------------|------------|-----|---|
| 1 | 4.0 | 0 | 0 | 3 | 12 | 32 | 56 | シラバスへの意識改善は前回よりも高まったといえるが、引き続きガイダンス等でUP SHOWAの活用を呼びかけ、授業開始後の意欲に結び付くよう努める。 |
| 2 | 4.3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 16 | 84 | 前回に続き積極性の高い学生が多く喜ばしい。この状態が維持できるよう、引き続き授業内容の工夫と学生への指導に努める。 |
| 3 | 4.6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 103 | 前回に引き続き、出席状況は一部の学生を除き良好である。欠席が目立つ学生にはクラスアドバイザーの援助を行い、早めの対応を心掛ける。 |
| 4 | 4.0 | 0 | 0 | 5 | 14 | 35 | 49 | 科目によるばらつきがあるものの、前回よりもわずかながら高まっている。全体的に自主学習に向かいやすくなる授業構成や環境整備への努力をさらに続ける。 |
| 5 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 15 | 44 | 44 | 前回よりもポイントは上がっているが、まだ改善の余地がある。実際は履修者の状態によりシラバス内容の変更やむない場合もあるが、学生が納得する工夫を続ける。 |
| 6 | 4.1 | 0 | 0 | 2 | 4 | 30 | 67 | 良好な評価を得ている。科目ごとにもみると、シラバスの確認度と数値がリンクしているようにも思える。引き続き理解しやすい授業の実施に努める。 |
| 7 | 4.2 | 0 | 0 | 2 | 6 | 21 | 74 | 良好な評価を得ている。引き続き学生の実態に即した明快な説明を心掛ける。 |
| 8 | 4.3 | 0 | 0 | 2 | 1 | 22 | 78 | 良好な評価を得ている。引き続き聞き取りやすい授業の実施と環境の整備に努める。 |
| 9 | 4.1 | 0 | 0 | 2 | 7 | 27 | 67 | 前回よりわずかながら評価が上がってはいるが、科目により多少のばらつきがある。授業内容や学生の実情に応じた効果的な機器の使用、板書等の工夫に努める。 |
| 10 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 8 | 20 | 75 | 良好な評価であるが、引き続きより効果的な配付資料や教材の工夫を心掛ける。 |
| 11 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 6 | 16 | 81 | 前回に引き続き、80年館の学習環境に良好な評価がなされている。しかし学生定員の増加により、教室が若干過密気味の授業も発生している。 |
| 12 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 10 | 58 | 35 | 少しずつ改善されてはいるが、科目によって十分とは言えない数字も出ている。図書館との連携を深め、また学生の図書館利用スキルが高まるような指導に努める。 |

3. 今後の方針

授業評価については、前回に引き続き概ね良好な状態を維持している。学科の特性上、明確な目標のもと着実な努力を続けている学生が多いが、学生の多様化も起こりつつあり、そうした状況に応えられる的確かつ柔軟な学習機会を提供していくことを心掛ける。

カリキュラムについては、学科定員増により漸次増加していく学生数に対応して、学生が希望する科目をできるだけスムーズに履修できるよう微調整を行い、前年に引き続き改善を続けていく。また平成 23 年度以降のカリキュラムについては、保育士資格に関する法令改正を視野に入れ、学生個々の進路希望に応じた学習が可能となるよう検討を進めていく。

環境・設備については、学科定員増に伴う履修者増加のために過密気味となった科目の教室の学習環境維持に心を砕くとともに、より効果的な機器の使用について、教員間の情報交換による研鑽に努める。

学生生活の様々な面でのケアについては、クラスアドバイザーを中心に学科教職員全員で学生についての情報を共有しながら綿密に行っているが、引き続き個々の学生に応じたきめ細やかな対応に努めていく。

1.概評

全体としては概ね良い評価を得ているといえる。ただし良い状況・良くない状況ともに本学科特有の科目構成と関連した傾向(演習科目と講義科目、理数系科目など)がみられる。

[学生]

学生の授業への出席状況は全般的に良い。しかし教室での積極的な参加となると評価にばらつきがある。さらに授業外での自主的な学習は、あまり積極的になされていない。全体的に演習・実習科目は課題(作品)の影響もあり積極的に自主学習に取り組んでいる傾向がある。一方で講義科目では自主学習が少ない傾向がみられ、積極的な学習を促す工夫が必要である。

[授業[内容]]

授業内容がシラバスで予想した内容だったかについては、全体的に「予想通り」との傾向にある。ただし幾つかの科目については予想と異なるという回答もあった。シラバス内容の充実とよりわかりやすい表現につとめたい。また授業内容の理解については、理数系科目において理解できない傾向にある。学力レベルによるクラス分けや授業内容の見直しを進めてきたが、これらの効果と対策を今一度検討する必要がある。

[授業[教え方等]]

説明の明快さ、話の聞き取りについては概ね良好な結果となっている。授業内容の理解については、理数系の科目で理解できない率が高くなっている。これらの科目は授業外での自主的な学習も少ない傾向にあることから、授業自体の理解を深める工夫と同時に効果的な自宅学習を促す努力をしていきたい。

[環境・設備等]

学習環境は概ね良好である。多人数受講科目であっても良好との評価を得ている科目が多い。視聴覚設備の充実が効果を与えているものと考えられる。一方で図書館の参考図書整備状況については、他の項目に比べると評価が低い。各授業担当者が参考図書の見直しを行うと同時に、学生への図書館利用アドバイスなどを行ってきたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|---|
| 1 | 3.6 | 0 | 0 | 2 | 34 | 77 | 22 | 全体としてよく確認している傾向にある。web履修が定着しつつあることと、低学年でのシラバス確認指導が徹底されつつある結果と考えられる。 |
| 2 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 16 | 61 | 58 | 科目平均値が3(中間値)未満の評価科目は無い。出席状況と合わせて積極的に授業に取り組んでいる状況がうかがえる。 |
| 3 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 54 | 73 | 出席状況は非常に良い状態である。科目平均値が4以上のものが半数以上を占める。評価3 ≤ <3.5の科目については高学年、午前中の科目が多い。 |
| 4 | 3.6 | 0 | 2 | 7 | 55 | 35 | 36 | 授業以外の自主学習では中間値が多い傾向にある。全体的には演習科目の方が高い評価であるが、中間値以下の科目の中にも含まれる演習科目もある。対策には科目毎の事情を見ていく必要がある。 |
| 5 | 3.7 | 0 | 0 | 1 | 31 | 79 | 24 | 最も多い回答は3.5 ≤ <4であり、授業内容はシラバスで予想したものであったとの回答傾向が多い。よりシラバス内容が充実していると考えられる。 |
| 6 | 3.8 | 0 | 1 | 3 | 33 | 63 | 35 | 授業内容の理解で最多回答は3.5 ≤ <4であるが、中間値以下の科目もみられる。理解できなかった回答は理数系科目に多くみられる。自主学習の必要性も含めて指導していきたい。 |
| 7 | 3.9 | 0 | 0 | 5 | 17 | 57 | 56 | 説明が明快であるかの問いに8割以上の科目が3.5以上の評価である。一方で中間値以下が5科目あり、これらは授業内容の理解や自主学習の項目とも連動する傾向にある。 |
| 8 | 4.0 | 0 | 0 | 3 | 17 | 44 | 71 | 授業中の話がよく聞き取れたという回答(4以上の評価)が半数以上を占める。マイク設備の充実等が成果を得ていると考えられる。 |
| 9 | 3.7 | 0 | 1 | 3 | 26 | 68 | 37 | 授業中の教材提示については約8割の科目が3.5以上の評価を得ている。学科の特徴もあるが、各教員が視覚的效果を意識した授業運営に取り組んでいる成果と考えられる。 |
| 10 | 3.8 | 0 | 0 | 4 | 19 | 75 | 37 | 前問同様配布資料に関しても8割の科目が3.5以上の評価である。視覚効果と合わせて配布資料も工夫していきたい。さらに配布物だけに頼らない自主的な学習も促していきたい。 |
| 11 | 3.9 | 0 | 0 | 4 | 18 | 49 | 64 | 学習環境はほぼ適切な状況にある。評価が中間値未満の科目は実質2科目である。(オムニバス科目で同一科目が担当者登録によって3科目とカウントされている。) |
| 12 | 3.4 | 0 | 0 | 5 | 77 | 44 | 9 | 参考図書の有無に関しては他の項目に比べるとやや低い評価となっている。各教員がより積極的に図書の整備を進めると同時に、関連図書の所在を含めて授業中に指導する必要がある。 |

3. 今後の方針

全体の傾向として、概ね良好な状態が持続されている。

特に教員の説明の明快さ・よく聞き取れたか、学習環境の評価項目においてはいずれも良い評価が得られている。視聴覚設備の拡充や各教員の授業運営工夫の成果が現れている。これらの項目については、今後もこの状態を維持またはさらに効果的な方法を模索していきたい。特に昨年度学科で設置した移動可能な視聴覚機器の活用により、さらなる効果が期待できると考えている。

学生の出席状況・積極性についても評価は良好である。ただし教室での積極的な参加には至っていない科目もあり、さらに講義科目においては授業外の自主的な学習があまりなされていない科目も多い。今後は各教員が授業外の自主的な学習を促す工夫が必要である。同項目で高い評価を得ている科目の授業運営等を参考にしたい。

学科平均値が最も低い値 3.4 を示したのは「参考図書が図書館に揃っているか」という項目であった。各教員が積極的に授業関連図書の推薦を行うと同時に、授業内で参考図書の紹介および図書館の利用について触れていくことが必要であろう。

学科の理数系科目については、授業内容を理解できていない科目が複数ある。これらの科目は比例して授業外の自主的な学習も少ない傾向にある。特に初年度教育の基礎科目においては、2年次以降の専門科目の基盤となる科目であることから学科としても様々な対応を試みてきた。レベル分けによる受講クラス、少人数授業のための科目増設などは一定の効果が得られている。しかし現在の入試形態では理数系が苦手の学生が入学できることから、学生間のレベル格差は縮小されていない。今後は視覚的な授業効果を考慮した授業運営や、予習・復習にも対応可能な教材の提供など学生の自主的な学習を促す方法も検討していきたい。

1.概評

健康デザイン学科は、1 年次学生 (81 名) と 3 年次編入学生 (6 名) から成る新設の学科であり、学科開設科目は 19 科目と少なかった。授業評価はおおむね良好である一方、シラバス確認と自主学習への取り組みは評価が低かった。1 年次学生に対しては、高学年の授業展開に向けて、自主学習の重要性を説く必要を感じた。

[学生]

1 年次学生は自己評価がやや低かった。シラバス確認や自主学習への取り組み方など、折に触れ呼びかける必要がある。

[授業[内容]]

学年による差がみられた。即ち、1 年次学生からの評価はやや低く、3 年次編入学生からの評価は高いものであった。1 年次学生に開講されている栄養士資格必修科目では、自主学習を促すなどの方法で、高い評価が得られるよう工夫を続ける。

[授業[教え方等]]

教授法についての評価は、全学平均をほぼ上回っており、概ね良好であった。

[環境・設備等]

環境についての評価は概ね良好であった。特に図書の充実に関しては、関係各所に感謝。今後も努力を続ける。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1≦ <2 | 2≦ <2.5 | 2.5 ≦ <3 | 3≦ <3.5 | 3.5 ≦ <4 | 4≦ | 評価と対策 |
|----|------|----------|------------|----------------|------------|----------------|----|--|
| 1 | 3.3 | 0 | 0 | 0 | 14 | 5 | 0 | シラバス確認が十分に行えていないことがわかった。授業に臨む際にはシラバスを確認するよう注意を促す。 |
| 2 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 2 | 13 | 4 | 授業へは積極的に参加している様子が見えてきた。 |
| 3 | 4.5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 18 | 出席の評価は大変良好であった。 |
| 4 | 3.3 | 0 | 0 | 3 | 10 | 6 | 0 | 自主学習への評価は学内平均を 0.3 ポイント下回った。自主学習の習慣づけを呼びかける。 |
| 5 | 3.5 | 0 | 0 | 1 | 12 | 4 | 2 | シラバスを全員が確認した上での評価でなければならない。シラバス確認を促す。 |
| 6 | 3.8 | 0 | 0 | 3 | 6 | 6 | 4 | 評価において 3 を下回ったのは専門科目であり、自主学習の方法をアドバイスするなど学生の努力を促す。 |
| 7 | 4.1 | 0 | 0 | 3 | 3 | 7 | 6 | 編入生対象授業での評価が高く、学内平均を上回った。1 年次学生へは自主学習の習慣づけを呼びかける。 |
| 8 | 4.2 | 0 | 0 | 1 | 5 | 7 | 6 | 編入生対象授業での評価が高く、学内平均を上回った。1 年次学生へは自主学習の習慣づけを呼びかける。 |
| 9 | 4.0 | 0 | 0 | 3 | 5 | 5 | 6 | 編入生対象授業での評価が高く、学内平均を上回った。1 年次学生へは自主学習の習慣づけを呼びかける。 |
| 10 | 4.0 | 0 | 0 | 2 | 7 | 6 | 4 | 編入生対象授業での評価が高く、学内平均を上回った。1 年次学生へは自主学習の習慣づけを呼びかける。 |
| 11 | 4.1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 12 | 4 | 概ね良好である。今後も努力を続ける。 |
| 12 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 11 | 6 | 2 | 概ね良好である。今後も努力を続ける。 |

3. 今後の方針

健康デザイン学科は、栄養士養成課程であるが、多角的な授業展開を特徴としている。そのため、新入学生は応用領域への期待が高く、低学年に開設されている栄養士必修科目への興味がやや希薄であるように見受けられる。栄養士資格必修科目は、高学年に展開される応用領域への基盤として重要であることを繰り返し伝えることと、基礎系科目の授業展開をよりアトラクティブにするため、教員も努力をする。

1.概評

食物健康学専攻単独の評価は、全体として非常に良好であった。資格必修科目と選択科目では目的が異なるため、必修でも前向きに、選択科目でも積極的に取り組む姿勢がうかがえた。

[学生]

シラバスの確認は徹底されてきたように見受けられ高いポイントを示した。出席は相変わらず良好であるが、自己評価は意外にも厳しかった。自主学習への取り組みに関しては、今後も学生の意識を高めるよう、工夫を要する。

[授業[内容]]

授業内容の評価は良好であり、すべての項目で昨年にくらべ向上した。全学平均に比べ、0.1 ポイント低いのが、履修範囲が定められている資格必修科目では、常に抱える問題である。今後も努力を続ける。

[授業[教え方等]]

授業方法について、評価は良好で、すべての項目で昨年に比べ向上した。ppt.については全学平均を 0.1 ポイント下回ったが、視聴覚設備の充実を働きかけるなど、今後も努力を続ける。

[環境・設備等]

環境・設備について、評価が向上した。特に、図書の実況には関連部署の努力に感謝。継続して努力する。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1≦ <2 | 2≦ <2.5 | 2.5 ≦ <3 | 3≦ <3.5 | 3.5 ≦ <4 | 4≦ | 評価と対策 |
|----|------|----------|------------|----------------|------------|----------------|----|---|
| 1 | 3.4 | 0 | 0 | 8 | 11 | 13 | 5 | 昨年より、大きく向上した。シラバス確認をする習慣が徹底してきていることがうかがえた。継続して確認を促す。 |
| 2 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 2 | 21 | 14 | 評価は概ね良好である。昨年同様、実験・実習科目で特に評価が高かった。 |
| 3 | 4.3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 29 | 出席は良好で、選択科目でも資格必修科目以上に出席が高いことは期待以上の成果である。自主学習につなげるよう指導の工夫が必要。 |
| 4 | 3.4 | 0 | 0 | 2 | 15 | 19 | 1 | 自主学習は選択科目での評価に二極化がみられることから、注意を促す。 |
| 5 | 3.6 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 | 7 | シラバスの確認を行っていないのに、この項目の評価をするのはいかなものか。全員がシラバスの確認をするよう、注意を促すことが必要。 |
| 6 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 10 | 10 | 17 | 評価は昨年より 0.1 ポイント上昇した。改善の努力がうかがえた。 |
| 7 | 4.0 | 0 | 0 | 1 | 7 | 10 | 19 | 評価は昨年より 0.1 ポイント上昇し、おおむね良好である。 |
| 8 | 4.1 | 0 | 0 | 1 | 6 | 9 | 21 | 評価は昨年より 0.1 ポイント上昇した。教室の施設が整備されてきたことが原因と考えられる。 |
| 9 | 3.8 | 0 | 1 | 1 | 10 | 10 | 15 | 評価は昨年より 0.1 ポイント上昇した。資格必修科目では、ppt を使用しない場合もあることを考慮すると、概ね良好である。 |
| 10 | 4.0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 14 | 19 | 評価は昨年より 0.1 ポイント上昇し、概ね良好である。 |
| 11 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 11 | 24 | 評価は昨年より 0.1 ポイント上昇し、概ね良好である。 |
| 12 | 3.7 | 0 | 0 | 0 | 10 | 19 | 8 | 評価は昨年より 0.1 ポイント上昇した。学内平均と比べても 0.1 ポイント高く、嬉しい評価である。 |

3. 今後の方針

管理栄養士専攻と別に評価したのは、初めてのことであり、昨年度と異なる傾向を示しているのは、そのためと考えられる。食物健康学専攻単独の評価での問題点は、自主学習と授業への積極的参加である。資格必修科目では学習意欲を向上させる工夫、選択科目ではさらに授業を活性化する工夫など、継続して努力する。

1.概評

今年度から、生活科学科の管理栄養士専攻と新設の管理栄養学科の評価が合わせたデータの提供がなされていたので、前年度の生活科学科の前期の評価とは本当のところ比較はできないが、傾向として比較検討した。各設問共に概ね、前年度通りの評価がされている。管理栄養士を目指す目的が一緒の学生達の評価であり、また、カリキュラム構成に変化がないため、ばらつきがあまりなく、評価が偏り、結果現われたため、同様な評価となったと思われる。

[学生]

例年通り、授業への出席は良好で、特に実験実習への取り組みに評価が高いので、積極的な取り組みがなされている。授業時間が長いので、授業外での自主的な学習は授業内に比較すると評価は低いですが、経年的にみると、教員の支援などで学生自身の意欲の高揚が評価として見られる。

[授業(内容)]

栄養士養成課程の授業内容は一定であるので、シラバス通り、授業は進められているが、様々な学生の理解力に合わせて授業を行うため、授業の進め方・内容等にも柔軟な対応がされていると考えられる。内容の理解力等には学年差もあるので、今後も学生の現状に合わせた授業の内容の組み立てや運営が必要と思われる。

[授業(教え方等)]

概ね良好である。教え方の評価は、ハード(教室・実験実習室、AV教材の設備など)の使いこなし方も重要でそれを効果的に使用できる担当者の技量も関係づけられる。今後も常に学生の学習意欲が高められるような授業展開を期待したい。

[環境・設備等]

栄養士養成課程における1授業の受講者数は、上限40名と制限があるため、学ぶ環境としては概ね良好である。設備、図書については学生・教員の要望を把握し、関係部署のご協力を仰ぎながら、専門書、新書、複数本の充実を図っていききたい。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1≦ <2 | 2≦ <2.5 | 2.5≦ <3 | 3≦ <3.5 | 3.5≦ <4 | 4≦ | 評価と対策 |
|----|------|----------|------------|------------|------------|------------|----|--|
| 1 | 3.5 | 0 | 0 | 6 | 19 | 21 | 7 | 若干、前期より、改善が、見られたが、全評価の中で、一番、評価が低い。栄養士資格関連科目が多く、内容が予想されるが、今後もシラバスの重要性を指導していく。 |
| 2 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | 35 | 例年通り、授業への取り組みは積極的である。特に実験実習への評価が高い。講義を含め、さらなる積極的な取り組みを期待する。 |
| 3 | 4.5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 47 | 例年通り、全評価の中で、一番評価が高い。意欲的に授業に出席した事を評価したい。今後もこの状態を維持できるように促していきたい。 |
| 4 | 3.7 | 0 | 0 | 1 | 13 | 28 | 11 | 授業中の取り組みが積極的にかかわらず、授業外での学習にばらつきがある。授業外での学習の効果について指導を各教員からの指導をお願いしていきたい。 |
| 5 | 3.7 | 0 | 0 | 0 | 17 | 26 | 10 | 項目1と合わせると、シラバスの確認と活用がなされていない授業は評価が低い。設問と回答との関連性を鑑み、設問の検討をする必要がある。 |
| 6 | 3.8 | 0 | 0 | 1 | 10 | 25 | 17 | 学年差及び授業形態(講義、実験実習、演習)によって理解度が違う。担当教員はそれらを意識して授業を運営しているように促していきたい。 |
| 7 | 3.8 | 0 | 0 | 2 | 13 | 11 | 27 | 授業は概ね明快であると評価されていたので、今後もこの状況を維持していくように努めていきたい。 |
| 8 | 3.9 | 0 | 0 | 3 | 9 | 13 | 28 | 概ね、聞き取りやすいと評価されていたが、受講生数と教室の広さ、AV教材の活用などによって若干異なるので、項目1と合わせ、検討していく必要がある。 |
| 9 | 3.8 | 0 | 1 | 2 | 11 | 18 | 21 | 例年通りの評価であるが、授業内容によって、AV教材などの利用の有無が決まってくるので、一概にこの評価が授業の評価に繋げるには無理がある。 |
| 10 | 3.9 | 0 | 0 | 2 | 4 | 22 | 25 | 項目6との関連性が認められるので、配布資料、教材等の効果的な使い方を教員各自が考え、授業内容のさらなる理解を支援する必要がある。 |
| 11 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 20 | 32 | 学習環境に対する評価は高いが、受講者数や授業内容における教室の設置についてはまだ検討をする必要がある。 |
| 12 | 3.7 | 0 | 0 | 0 | 9 | 37 | 7 | 専門書を利用するケースが多いので、専門領域によっては不十分な点も感じられる。今後も新書などを中心に複数本の充実が必要である。 |

3. 今後の方針

前述した通り、今年度から生活科学科の管理栄養士専攻と新設の管理栄養学科の評価が合わせたデータが提供されたので、そのデータと昨年度後期の生活科学科の管理栄養士専攻のデータと比較検討した。今回のデータは管理栄養士養成という目的の統一が図られ、今後の授業運営を考える上においても参考になる評価になった。

今期は全般的に良好で、概ね評価は高い。

特に項目2(教室内での取り組み)や項目3(出席状況)は、授業内での積極的な取り組みがなされて学生は意欲的な学習を行っていると思われる。しかし、項目1(シラバスの確認)、項目5(シラバスの内容)の評価が他の設問に比較して低いことが特記される事柄である。しかし、栄養士養成課程の内容は一定であり、大幅に逸脱することはできないので、学生がシラバスを確認せず、授業に臨むことは常に予想されている。授業内容を様々な学生の理解度を合わせるために柔軟な対応をすることも必要であるので、今後とも教員それぞれがシラバスの効果的な活用を含めた授業展開について検討していくことが重要である。

授業改善を行うためには、学生の自主的な取り組み、教員の授業展開の能力の他に、学習の環境づくりも大切な要因であるので、環境整備も検討していきたい。

1.概評

学科全体と大学全体とを比較すると、大学全体より低い数値の項目は参考図書の設定の点のみで、それ以外の項目では同等あるいは上回る数値となっている。また、各項目ごとの評価を見ても、2.5以下の評価はなく、2.5以上3未満についても「授業外で自主的な学習をしましたか」という項目でやや多いが、6/158であり、さほど多くはないといえる。

[学生]

シラバスの確認は、平均3.9と大学全体より上回っており、前期と比べても、0.3ポイント上回っている。授業への積極性についても、前期を大きく上回り、大学全体をも上回っている。出席についても、前期よりも出席したと答えた学生が増加し、大学全体の平均と同じ数値であった。授業外での自習については、大学全体を下回るものの、前期に比べると数値が上がっており、学生の自主的な勉強に改善がみられた。

[授業[内容]]

授業内容はおおむねシラバス通りに行われており、大学全体の数値を上回る。前期と比べても後期のほうが、数値が高く、前期よりも改善されていることが見受けられた。

[授業[教え方等]]

説明が明快であった、聞き取れた、のいずれの項目においても平均は4.1を上回っており、大学の平均をも上回っている。前期と比較しても、0.2ポイント上回っており、前期よりも学生が授業に満足していることが見受けられた。

[環境・設備等]

参考図書について、やや低い評価となっている。前期よりは改善されたものの、以前として改善の余地がある。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いといったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|---|
| 1 | 3.9 | 0 | 0 | 3 | 17 | 77 | 61 | 前期に比べ、シラバスを確認する学生が増えた。2.5以上3未満の数値は3となっているが、同じ授業であるので、実際は1である。低い数値の授業は必修授業が多いので、第一回の授業時にシラバス確認を促したい。 |
| 2 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 8 | 72 | 78 | 積極的に授業に臨んだ、と答える学生が多く、また前期よりも増加している。このままの水準を保ちたい。 |
| 3 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 40 | 116 | 多くの学生が、よく出席したと答えており、前期に比べると、3以上3.5未満の数値が減少し、4以上の数値が増加している。 |
| 4 | 3.5 | 0 | 0 | 6 | 70 | 62 | 20 | 前期に比べると2.5未満の数値がなくなり、改善がみられるが、4以上と答える学生が少ないため、課題を定期的に課すなど、自主学習を促して改善したい。 |
| 5 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 28 | 80 | 50 | 前期に比べ、2.5未満の数値がなくなり、シラバスと授業の一致が改善されたように思われる。さらに、わかりやすいシラバスを記すよう努めたい。 |
| 6 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 17 | 67 | 74 | 前期に比べ、2.5未満の数値がなくなり、4以上が増加した。さらにこの水準を上回るように、教員一人ひとりが努力することが必要と思われる。 |
| 7 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 18 | 45 | 95 | 4以上の数値が20以上増え、前期より明快到授業が行われたことが分かる。この水準を保つよう、教員一人ひとりが努力することが必要と思われる。 |
| 8 | 4.2 | 0 | 0 | 2 | 7 | 35 | 114 | 4以上の数値が前期を大きく上回っており、改善が見られる。3未満の2は同じ授業であり、実際は1である。 |
| 9 | 3.9 | 0 | 0 | 2 | 27 | 54 | 75 | 前期よりも上回っており、板書・OHPの使い方が改善されたことがうかがえる。 |
| 10 | 4.0 | 0 | 0 | 2 | 16 | 58 | 82 | とくに1年生については、前期にそのレベルや興味などがわかるためか、前期よりも数値が上がっている。低い数値の授業は全学対象の資格科目である。 |
| 11 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 6 | 52 | 100 | 前期の数値を全体的に上回っており、教室の大きさに学生が満足していることが分かる。3.5未満の授業については、資格科目で履修者が多いため、この解答となったように思われる。 |
| 12 | 3.7 | 0 | 0 | 0 | 38 | 95 | 25 | 参考図書については、図書館や学科などで、参考となる図書をそろえる必要がある。学科で図書をそろえるなど、改善を図っている。 |

3. 今後の方針

前期と比べると、全体的に評価が上がっていることが分かる。授業評価を実施することにより、その結果を受け止めた結果、いくらかの改善がみられたのではないかと思われる。今後も、授業評価の内容を真摯に受け止め、さらに質の高い授業運営をしていきたい。教室環境などについては、教育支援センターに協力頂きながら、教室の広さや設備などについて、授業内容や指導方法、履修者人数と、教室環境が合うように、改善を図りたい。

1.概評

「出席状況」以外は、いずれも全体平均より学科平均が 0.1～0.5 ポイント低く、学生は授業に対して厳しく評価しているようだ。全体的には、20 年度後期とほぼ同様な結果であった。

[学生]

栄養士の免許の他、フードスペシャリスト、栄養教諭、家庭科教諭等の資格取得という目的意識をしっかりと持ち、勉学に励んでおり、出席は良好である。

免許・資格関連の必修科目が多いためか、事前のシラバス確認が徹底されていない。今後の課題として、オリエンテーション・HR などを活用し、喚起したい。

[授業[内容]]

学生の理解度はおおむね良好であるが、科目によるバラつきも生じている。学生の得手不得手や学生間の理解力の差も大きいいため、それも踏まえ、個々人への対応など授業担当者のさらなる取り組みに期待する。

[授業[教え方等]]

栄養士法により、授業は1クラス 40 人として実施しているため、受講しやすいと思われる。また、教材、資料、power point等を効果的に用いた授業への取り組みが評価され、おおむね良好である。実験・実習室ではマイクを使用するなど、授業担当者の工夫が功を奏したと思われる。

[環境・設備等]

おおむね良好との評価を得た。学生ロッカーは教室内と廊下に設置されたもの両方が使用可能となり整備された。しかし、教室内、机のまわりなどの学習環境整備への個々人の意識の欠如が著しく、公共の場についての認識が、今後の指導課題である。また、参考図書については、授業担当者が必要な図書の確認を行い、さらなる設備充実に向け、図書館へ働きかけていくことが必要である。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

| no | 学科平均 | 1≦ <2 | 2≦ <2.5 | 2.5≦ <3 | 3≦ <3.5 | 3.5≦ <4 | 4≦ | 評価と対策 |
|----|------|----------|------------|------------|------------|------------|----|---|
| 1 | 3.2 | 0 | 0 | 3 | 28 | 6 | 1 | 免許・資格関連の必修科目が多いためと考えられる。 |
| 2 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 4 | 22 | 12 | 前期よりもやや下がってしまった。校外実習が終了し、自己を冷静に見つめ評価する力が身に付いたことも一因と考える。 |
| 3 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 34 | 出席状況は良好である。欠席の多い学生に対しては、学科内の連携を密にし、今後も指導を継続したい。 |
| 4 | 3.5 | 0 | 0 | 5 | 17 | 14 | 2 | 科目によるバラつきはあると思うが、自主的学習を促す授業の進め方を検討する。 |
| 5 | 3.4 | 0 | 0 | 2 | 23 | 11 | 2 | シラバスの事前確認の不十分さと、内容が専門性の高い分野によるものと思われる。 |
| 6 | 3.5 | 0 | 0 | 3 | 10 | 21 | 4 | 学生の理解力にかなりの差が生じている。学ぼうとする意欲を育て、授業に集中させるように工夫が必要である。 |
| 7 | 3.6 | 0 | 0 | 4 | 5 | 20 | 9 | 科目によるばらつきは見られるが、ほぼ明快と良好な評価を得た。 |
| 8 | 3.8 | 0 | 0 | 2 | 4 | 21 | 11 | 授業は、1 クラス 40 人を単位として実施しており、ほぼ良好との評価を得た。 |
| 9 | 3.7 | 0 | 0 | 3 | 7 | 19 | 9 | 授業の特性により、使用教材は異なるが、概ね良好との評価を得た。 |
| 10 | 3.6 | 0 | 0 | 2 | 8 | 20 | 8 | 授業の内容により一概に評価は難しいが、概ね良好との評価を得た。 |
| 11 | 3.7 | 0 | 0 | 0 | 2 | 31 | 5 | 概ね良好との評価を得た。 |
| 12 | 3.5 | 0 | 0 | 0 | 15 | 21 | 2 | 教員からも要望を出し、さらなる参考図書の充実整備を図りたい。 |

3. 今後の方針

22年度 食物科学科は、2年生4名である。個々に目的・履修科目も異なるため、それぞれに合わせたきめ細かな指導を行い、半期で卒業できるように対応していきたい。

また、専攻科(12名)についても同様に、個々人の目的に合わせた指導を実施する。まずは、シラバスの事前確認を徹底し、学習に集中させ、知識・技術の向上を図る。さらに、一年後の社会への巣立ちに向け、大人としての生活態度についても習得させたいと考える。

1.概評

[学生]

自ら学ぶという姿勢は、学生に是非身に付けてもらいたい習慣であるが、項目4(「授業外で自主的な学習をしたか」)の数値は全体平均の3.6に比して3.3と見劣りがする(しかもこの傾向は恒常的である)。学生の教養科目への取り組みに消極性が見て取れる。

[授業[内容]]

概ねシラバスの内容通りに或いは学生の期待をほぼ裏切らない程度に講義がなされている、と推定できる。

[授業[教え方等]]

項目6から10の数値を考量すると、授業内容に関して、学生はかなり満足をしていると推定できる。しかし、この推論は実際の講義の場での印象、試験の結果などに鑑み、俄かには信じ難い数値である。

[環境・設備等]

概ね学生はこの項目に関しても満足をしていると考えられる。視聴覚の充実が年々図られてもいることもその理由の一つか。参考図書の充実に関する評価は、6から11の項目と比べ低い。参考図書の充実と参考図書の学生へのインフォメーションが望まれる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|--|
| 1 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 22 | 69 | 58 | ここ数学期、数値は 3.8 でほぼ横ばいである。シラバスは概ね活用されていると見做せる。更なる活用が俟たれる。 |
| 2 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 31 | 72 | 46 | ここ何年もほぼ一定の数値で、概ね良好。 |
| 3 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 140 | 出席状況はきわめて良好。しかし、項目 4 の数値と比較すると、果たしてこの数値が学業に対する熱心さを表しているのか疑問。 |
| 4 | 3.3 | 0 | 0 | 22 | 91 | 33 | 3 | 項目 3 との数値の落差(4,2 と 3,3)から、教養科目に対する学生の取り組みの消極性が伺える。教員としては、学生の好奇心をそそる講義を工夫せねばならない。 |
| 5 | 3.7 | 0 | 0 | 1 | 43 | 71 | 34 | 概ね良好である。 |
| 6 | 3.8 | 0 | 0 | 1 | 23 | 69 | 56 | 概ね良好である。 |
| 7 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 21 | 46 | 82 | 4 以上の分布が一番多く(82/149)、かなり良い数値と言える。 |
| 8 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 55 | 85 | 4 の分布が高く(85/149)、更に 3.5~4 と4の合計が 140/149 と、良い数値と言える。 |
| 9 | 3.8 | 0 | 0 | 0 | 38 | 58 | 53 | 概ね良好である。 |
| 10 | 3.9 | 0 | 0 | 1 | 26 | 55 | 67 | 前回より 0.1 ポイント下がっているが、概ね良好と言える。 |
| 11 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 21 | 59 | 69 | 前回より 0.1 ポイント下がっているが、概ね良好と言える。 |
| 12 | 3.5 | 0 | 0 | 1 | 64 | 78 | 6 | 6~11 の項目と比べると見劣りがする。教員としてはさらに積極的に参考図書の充実と周知を図っていきたい。 |

3. 今後の方針

このアンケート結果のみから、学生の一般教養科目への取り組みの在り様を云々することは早計であろうが、学生の教養科目に対する＜消極的な＞取り組みがアンケートから十分に読み取れる。このような消極性を如何に自主的、主体的なものに変えていくかが、本部門「一般教養」の今後の重要な課題である。むろん、これは大学の一部分が頑張っただうにかなるような性質のものではなく、社会状況、時代状況と連動した問題であるが、教員間の共通の認識として、学生の好奇心を煽り、知の地平を広げるような魅力ある講義作りを平素から心掛けていきたい。そのためにも今後さらに教員間や学生と教員間のコミュニケーションが十分取れるような体制作りをしなければならない。

1.概評

各設問の趣旨が異なるので、12問の平均値に大きな意味はないが、前期の4.1に対して4.2弱へと上昇した。特に、3に満たない評価が、前期の4点から1点に減少したことは着目したい。教職科目の全体傾向としては、重大な問題は感じない。

[学生]

本学の制度上の特色を反映して、「出席状況」は良い。ただ授業に出ているだけでなく、前向きに取り組んでいるとの意識も読み取れる。しかし、授業を発展させたり、定着させるための努力を、特に低学年時で更に促す必要がある。

[授業[内容]]

シラバスで予測された内容との隔たりの指摘が見られる。シラバス内容の受講前の確認のスコアと、ほぼ同じ数値であることを考えれば、授業内容の編成とその妥当性については、更に精緻な検証・研究が必要である。理解はほぼできている。

[授業[教え方等]]

設問7～10の平均値が4.3で、前期の4.2を上回り好結果であった。「説明の明快さ」で、一人相対的に低い評価があったが、受講学生の反応は、ほぼ一致している。他の設問と比べて「揺れ」がないことの内実を、検討する必要があるが、満足はできる。

[環境・設備等]

受講学生の人数や教室環境については、特に問題はないようである。回答者全員が4以上の評価をしたのは、この設問だけであった。図書館の授業で役立つ文献資料の充実は、引き続き努力が求められる。学生のニーズ把握も必要だと思われる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までの比較で記述する。)

| no | 学科平均 | 1 ≤ <2 | 2 ≤ <2.5 | 2.5 ≤ <3 | 3 ≤ <3.5 | 3.5 ≤ <4 | 4 ≤ | 評価と対策 |
|----|------|--------|----------|----------|----------|----------|-----|---|
| 1 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 20 | シラバスの事前確認は、前期に比べて向上した。シラバスを活用する必然性を高める必要がある。 |
| 2 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 22 | 「教科教育法」など、具体的・実践的な授業でのスコアが高いものと思われる。より上昇を目指したい。 |
| 3 | 4.5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 29 | 出席状況には問題はない。ただ、皆勤賞などが目的にならないように留意する必要がある。 |
| 4 | 3.9 | 0 | 0 | 1 | 6 | 14 | 9 | 平均値3.9ではあるが、3点台克服のために、単なる「学習の促し」ではなく、具体的な手立てが必要である。 |
| 5 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 10 | 18 | 設問1とほぼ同一傾向。シラバスが「予定表」で、「一応示しておく」ことにならないような意識が求められる。 |
| 6 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 23 | 授業の理解には、大きな問題はないと思われる。ただ、これは前提条件であり、一層の向上が必要である。 |
| 7 | 4.3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 6 | 23 | 説明(言葉)が明瞭・適切であることは、授業の基本であり、もう一段階向上を図りたい。 |
| 8 | 4.4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 24 | 学生の「言語能力」と、教師の「言語能力」の双方に関わることであり、大きな問題はないと受け止めている。 |
| 9 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 23 | この数値上は大きな問題はないが、授業における多様なメディアの、特性を生かした活用の研究は必要。 |
| 10 | 4.3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 24 | 設問9と10は一致した結果で、学生の反応の妥当性が窺える。詳細な分析は、なお必要になる。 |
| 11 | 4.4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 全員がほぼ満足している。改善の余地がないわけではないが、後期に受講選択する学生の特徴の反映か。 |
| 12 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 3 | 18 | 9 | 参考書の不足を、どの程度切実に感じているかは分からないが、検定教科書の充実は図っている。 |

3. 今後の方針

- ① 「授業改善アンケート」に示された結果を、100%そのまま受け止めなければならない訳ではないが、「アンケート用紙を配布し、結果が伝えられ、「報告書」を作成することは熱心であっても、その結果を、いかに教師間で共有し、次に生かし、改善に反映させるかが弱いと思われる。そのために、ルーティンワーク（年中行事）化している感がある。お座成りに何年続けたとしても、改善への効果は期待しがたい。改めて、「学生による自己評価と授業評価」の意義について、全学的に啓蒙を図り、徹底させることが不可欠だと思われる。
併せて、教職課程(学科)の傾向を踏まえつつも、自分自身の結果を、誠実に、丹念に見つめ直すことを、関係教員に周知させたい。全体を数値化することによって分かることの前に、一人ひとりの教師に対する評価を、プラスの面もマイナスの面も同等に受け止めることが先決であるからである。
- ② 今回、前期の結果と対比させることで読み取りをしたが、前後期では科目にも異なりがある。評価する主体である母集団は、いずれの場合でも同一ではないが、より比較の意味をもたせるためには、同じ時期(今回の場合は、前年度後期および次年度後期)の結果との比較・検証が必要である。そのためには、3年間のスパンでワンセットとすることが必要だろう。
- ③ 学生の受講意識として、「前期に履修し・単位を修得したい」との思いが強いようである。教室の収容人数を超えることは稀でしかないが、受講者数が前期に偏る傾向がある。前後期に均等な受講が可能であるように科目設定をしているが、「形式的な受講調整」ではない方法でバランスを保つことを考えていきたい。
- ④ 教職科目は、伝統的な「キャリア形成に資する科目」である。単に数値的な視点から、目先の結果だけを追うことなく、教職に就いた時に、十全な教師としての力を発揮できるように、科目のあり方(内容と方法)を、更に研究開発していきたい。

1.概評

質問3をのぞくと、全項目で前期よりも改善されている。

[学生]

授業評価が形骸化している。すべて3にマークする学生がめだつ。

[授業[内容]]

斬新な外国語教授法でも開発されないかぎり、数値はおおきく変化しないのではないか。

[授業[教え方等]]

教えかたよりさきに、少人数化をすすめ、キメこまやかな講義ができる環境をととのえたい。

[環境・設備等]

1号館の黒板の劣化がひどい(とくに3階)。磁石もつかえず、外国語教育にむいていない。即刻、改善しなければならない。視聴覚教材に適応した教室がすくなすぎる。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

| no | 学科 平均 | 1≦ <2 | 2≦ <2.5 | 2.5 ≦ <3 | 3≦ <3.5 | 3.5 ≦ <4 | 4≦ | 評価と対策 |
|----|----------|----------|------------|----------------|------------|----------------|-----|---|
| 1 | 3.6 | 0 | 0 | 18 | 78 | 73 | 50 | 前期比+0.2ポイント。 |
| 2 | 4.0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 112 | 98 | 前期比+0.1ポイント、穏当な数値。 |
| 3 | 4.2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 27 | 191 | 前期比-0.1。出席率は例年よいが、問題なのは質問2や4の実態 |
| 4 | 3.6 | 0 | 0 | 3 | 59 | 121 | 36 | 前期とおなじ数値。 |
| 5 | 3.7 | 0 | 0 | 0 | 61 | 112 | 46 | 外国語テキストとシラバスはほぼ並行しているから例年大きな変化はない。 |
| 6 | 3.8 | 0 | 0 | 4 | 43 | 113 | 59 | 前期比+0.1ポイント。 |
| 7 | 4.0 | 0 | 0 | 3 | 17 | 72 | 127 | 前期比+0.1ポイント、右肩あがりである。 |
| 8 | 4.1 | 0 | 0 | 3 | 8 | 64 | 144 | 前期比+0.1ポイント。 |
| 9 | 3.9 | 0 | 0 | 2 | 28 | 98 | 91 | 前期比+0.1ポイント。 |
| 10 | 3.9 | 0 | 0 | 0 | 23 | 97 | 99 | 前期比+0.1ポイント。 |
| 11 | 4.1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 65 | 151 | 前期比+0.1ポイント、少人数化をすすめた成果のあらわれ。 |
| 12 | 3.5 | 0 | 0 | 2 | 93 | 102 | 22 | 前期比+0.1ポイントだが、依然、図書館が充分活用されているとはいいいがたい。 |

3. 今後の方針

- 履修登録の手順を簡便にする.
- 教員がおしえやすい環境, 学生がまなびやすい環境(教室, 機器などのハード面)をととのえる.
- 語学系学科の学生にかぎらず, すべての学生がただ単に単位を充足するためではなく, 必要なとき, 自由に外国語をまなべるよう配慮する.
- クラス上限人数 20 名を目標とする.